

近江八景：石山の秋月

大津の石山寺は、近江八景が誕生する以前から琵琶湖を一望できる場所として有名でした。山腹にある寺院の最も高い場所に位置する月見のためのスポットは、11世紀に貴族の女性である紫式部が、水上の月を見たことでインスピレーションを受けて、『源氏物語』を書き始めた場所だと考えられています。

歌川広重（1797～1858年）がこの景観を描いた木版画のなかで最も有名なのは、雲のない夜空に満月が浮かんでいる保永堂版です。山が前景を占め、背景には瀬田の唐橋が水上に架かっています。石山寺の月見亭と本堂も描かれています。

現在は湖の両側に他の建物も建っていますが、この景観はいまだに魅力的です。広重の版画と同じように見える見晴らしの良い場所を見つけるのは難しいかもしれませんが、石山寺では今でも月見のイベントが開かれています。